

2024 年 1 月 12 日 午前 10 時 30 分

降誕節第 3 主日 主日礼拝

司会 楠元 桃  
奏楽 川名ひさ子

讚美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあき)

前奏

招きのことば マルコ 1:9-11

讚美歌 368「新しい年を迎えて」 一同

交読詩編 2:1-12(P.9/5)

祈り 司会者

《関東教区お祈りカレンダー》

志木教会 埼玉和光教会 朝霞教会  
(主の祈り)

讚美歌 277(1-3)「罪なき神の子」 一同

聖書 旧約 サムエル上 16:6-13(P.453)

新約 マタイ 3:13-17(P.4)

メッセージ『誰かの支えを受けて』

祈り 川上 盾 牧師

讚美歌 277(4-6)「荒れ野のいでゆき」 一同

献金 一同

(献金感謝の祈り)

信仰告白(ドロー・ゼの信仰告白②) 一同

頌栄 312(5)

祝禱 川上 盾 牧師

後奏

報告・紹介

<招きのことば> マルコ 1:9-11

イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。水の中から上がるとすぐ、天が裂けて“霊”が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

《1月礼拝当番》 田村 啓 徳島恵子  
横田喜一 横田こずえ  
楠元 桃 伴 尚子

《今週の集会・行事》

- ◎ 本日 9:15 CS朝礼拝
- ◎ 本日礼拝後 “教会源 10” <その5>
- ◎ 本日～13 日 牧師、これもさんびか合宿(町田)
- ◎ 16 日(木) 10:30 婦人会例会
- ◎ 17 日(金)10:00 会堂清掃 C 組

《次週の主日》

- ◎ 主日礼拝 10:30
- メッセージ『あなたがやりなさい』
- 聖書:旧約 イザヤ 52:7-10(P.1148)
- 新約 マタイ 14:13-16(P.28)

讚美歌 56, 394, 405, 28  
交読詩編 40:6-12(P.48/44)

司会:田村佳奈 奏楽:金井文子

- ◎ 第 3 回 “カラコン” 礼拝後
- ◎ 群馬地区教会懇談会 15:00 前橋教会

《予告》

- ◎ 紅雲町集会 23 日(木)10:30 於・教会
- ◎ ハレルヤブックセンター出張販売 26 日(日)
- ◎ CS午後礼拝 26 日(日)13:00

《報告》

◎ 本日 “教会源 10” <その5>を行ないます。

組合教会の独自の教会運営システムについて、教団合同前の3つの代表的な旧教派(長老、メソジスト)との比較によって取り上げます。

◎ 次週は第 3 回 “カラコン” です

今回のテーマは「2025 年度の伝道計画をみんなで考えよう」。①単発イベント、②継続イベント・事業、③SNS、の3つのグループに分かれて話し合います。本日受付で詳しい案内をお配りしました。準備の都合上、午後の話し合いへの出欠、および希望するグループをお知らせ下さい。

◎ 教会外観の絵・イラスト募集中です

来年(2026 年)迎える創立 140 周年に向けて、新しい作品を募集し、今後様々なところで用いさせていただきますと思います(週報表紙、パンフレット、ホームページ等)。「コンテスト」ではありませんので、気兼ねせずに奮ってご応募下さい。3月末まで切です。

◎ 群馬地区教会懇談会 (1/19 15:00)

群馬地区にとって喫緊の課題となっている宣教協力(代務、兼牧、教会合同・合併)について話し合います。テーマは「牧師がいなくなる時の礼拝をどうするか?」。応援を受ける教会に限らず、送り出す側の教会にとっても考えるべきテーマです。役員だけでなく、どなたでも参加できます。みんなで参加し、課題を共有しましょう。午後 3 時より前橋教会で開催。出席される方は、掲示板の用紙にお名前を記入して下さい。

◎ ハレルヤブックセンター出張販売 (26 日)

依頼を受けて行なわれます。キリスト教関係の書物、グッズ等の販売になると思います。

《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献金
主日礼拝	54	24	39,605
	昼( )	夜	計
聖研祈祷会	9	4	13

《メッセージ》『ちいさないのちが』川上牧師

エレミヤ 31:15-17、マタイ 2:13-18(1 月 5 日)

▼元日に能登半島を襲った震災から 1 年が経過した。昨年の震災の日、その日に生まれた赤ちゃんがいる。大変な出産だったと思うが、人々に希望も与えたことだろう。そしてその子は今、自分の生まれた日のことを何度も語り聞かされることになると思う。▼イエスが生まれた時にも尋常でない出来事が起こった。東方の博士たちが「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおられますか?」と訪ねたのは、当時の王・ヘロデのところであった。このことがその後、大きな悲劇を生む。▼博士たちは幼な子に出会えたが、夢のお告げによってヘロデに知らせずに帰っていった。それを知って憤ったヘロデは、最悪の反応をした。ベツレヘム近辺の 2 歳以下の男の子を皆殺しにせよ、との命令を下したのである。▼こうしてベツレヘム周辺では子どもを殺された親たちの泣き声があふれた。マタイはそれをエレミヤの預言の成就と解釈する。しかしヨセフとマリア、そしてイエスの家族は、やはり夢のお告げによってエジプトに行き、難を逃れた。▼この箇所について、かつてこんな解釈を読んだことがある。「ヘロデの謀略によってしても、み子イエスの命を奪うことはできなかった。何と大いなる神のご計画!」。「冗談じゃない!」と思った。イエスが難を逃れた傍らでは、ちいさないのちを奪われた多くの母の悲しみがあつた。「それが神のご計画? そんなわけないだろう!」と思ったのだ。▼このような惨劇を神は決して望まれない。しかしだからと言って、上からの力で介入されることもない。横暴な権力者の暴挙を防ぎ止めるのは、私たち人間の仕事なのだと思う。▼ところで気になることがある。イエスはこのことを知っていたのだろうか? 推測の域を出ないが、この惨劇のことはエジプトのヨセフ家族にも伝えられたらう。そして両親はイエスに成長の節目ごとにその出来事を伝えたのではないだろうか。▼自分が生まれた、そのことのために、何人ものちいさないのちが奪われる出来事があつたということ、そのことへの負い目や責任感...それがイエスの人格を作る一つの要素になったのではないかと。カトリック教会ではこの時殺された子どもたちを最初の殉教者と位置付けるといふ。イエスのあの隣人に愛を届けるひたむきな生き方は、その殉教者に応える歩みをしなければならぬ...そんな決意に裏打ちされたものなのではないだろうか。▼現代においても、喜びの陰で泣く人がいる。ベツレヘムの聖降誕教会では、ガザ地区の紛争を覚えてクリスマスの賑やかな行事を中止し、ただひたすら平和を願う祈りをささげたといふ。▼私たちは今年も喜びのクリスマスを祝った。そのこと自体では間違いではない。しかしその喜びが浮かれてしまい、その陰で泣く人をわすれてしまったならば、私たちが救い主の誕生を祝うその喜びに、一体何の意味があるのだろうか。そのことをしっかりと考えたい。